

平成 30 年度いわて特別支援教育推進プラン等施策の取組状況について

1 平成 30 年度事業実施状況について

(1) 校種別研修事業

ア 幼稚園、保育所等対象

① 幼児期における特別支援教育研修会

〔二戸会場〕平成 30 年 6 月 9 日（土）二戸地区合同庁舎 参加者 37 名

講義「特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について」

講師 奥州市立幼保連携型認定こども園あゆみ園 上席主任保育教諭 有住 百香里 氏

講義「特別な支援を必要とする幼児の小学校等への就学について」

講師 岩手大学教育学部附属幼稚園 前副園長 下山 恵 氏

〔大船渡会場〕平成 30 年 6 月 23 日（土）大船渡地区合同庁舎 参加者 32 名

講義「特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について」

講師 一関市立弥栄幼稚園 園長 岩本 智子 氏

講義「特別な支援を必要とする幼児の小学校等への就学について」

講師 岩手大学教育学部附属幼稚園 前副園長 下山 恵 氏

【成果】

- ・具体的な実践に基づく講義と、特別支援教育園内体制づくりや小学校への引継ぎに関する講義によって構成したことで、多くの方から「具体的に知ることができた」、「今後も参加したい」など、高い評価を得ることができた。

【課題】

- ・多くの方々に参加いただけるよう、案内方法や研修内容について今後も丁寧に行っていく。

イ 小中学校・義務教育学校、高等学校関係

① 特別支援教育コーディネーター連絡会による研修

〔盛岡北地区〕平成 30 年 8 月 3 日（金）滝沢ふるさと交流館 参加者 40 名

講義「特別支援教育コーディネーターの役割」

講師 学校教育課 指導主事 五安城 正 敏

〔盛岡中央地区〕平成 30 年 4 月 19 日（木）都南公民館 参加者 83 名

講義「特別支援教育の推進について」

講師 盛岡市教育委員会事務局 指導主事 山戸 貴義 氏

〔盛岡南地区〕平成 30 年 7 月 27 日（金）盛岡となん支援学校 参加者 32 名

講義「地域・医療とのつながり方」

講師 岩手県立療育センター 発達障がい支援係長 長 葎 康 紀 氏

〔中部・県南地区〕平成 31 年 1 月 7 日（月）一関清明支援学校 参加者 71 名

講義「乳幼児発達相談と関係機関との連携と支援の引継ぎ～保護者の気持ちに寄り添いながら～」

講師 一関子育て支援センター 主任保健師 佐藤 由子 氏

〔沿岸 3 地区〕平成 30 年 12 月 3 日（金）シーサイドタウンマスト 参加者 55 名

講義「読み書きが気になる子どもの認知特性の理解～理念を貫き支援を重ねるために～」

講師 岩手大学大学院教育学研究科 准教授 佐々木 全 氏

〔県北地区〕平成 30 年 8 月 2 日（木）久慈地区合同庁舎 参加者 32 名

講義「支援を要する子の就労等について」

講師 チャレンジドセンター久慈 所長 鈴木 潔 氏

② 特別支援教育支援員研修会（小中学校・義務教育学校、高等学校）

- ・日 時 平成 30 年 7 月 31 日（火）
- ・会 場 盛岡視覚支援学校
- ・参加者 小中学校・義務教育学校、高等学校の特別支援教育支援員、介助員等 135 名
- ・内 容 講義「支援を要する児童・生徒の困難さ理解と支援の手立てについて」
講師 宮古恵風支援学校 教諭兼指導主事 佐藤 陽子
実践紹介「特別支援教育支援員による取組」
講師 伊保内高等学校 特別支援教育支援員 前田 玲子氏
協議「担当する児童生徒への望ましい支援の在り方」

【成果】

- ・県内各地から参加できるよう、夏季休業を利用して実施していること、本研修会が周知されてきていることなどから、昨年度よりも多くの方々に参加いただいた（年度当初は、各市町村において実情に合わせてながら、特別支援教育エリアコーディネーターを活用するなどして実施）。
- ・特別支援教育エリアコーディネーターや特別支援学校教員の進行によるグループ別協議により、日常の課題の解決や、支援の方向性につながる具体的な話し合いとなった。

【課題】

- ・参加者数や開催時期等を踏まえた研修会場を検討する。

③ 高等学校特別支援教育コーディネーター研修

- ・日 時 平成 30 年 6 月 28 日（水）9：00～16：15
- ・会 場 総合教育センター
- ・参加者 全県立高等学校特別支援教育コーディネーター 77 名
- ・内 容 ベーシックコース 講義 「特別支援教育コーディネーターの役割」
講義 「発達障がいの基本的理解と対応」
アドバンスコース 協議・講義 「校内外の資源を活用した実践事例」
合同 講義 「国及び本県における特別支援教育」
協議 「高等学校における特別支援教育の推進」

【成果】

- ・特別支援教育に関する知識や経験年数を勘案したコース別の研修としたことにより、それぞれの特別支援教育コーディネーターのスキルアップにつながった。
- ・各高等学校の特別支援教育コーディネーター間や、県教育委員会事務局学校教育課特別支援教育担当等との関係づくりにつながり、研修後の各校の取組に生かすことができた。

【課題】

- ・参加者の研修内容へのニーズが多様であることから、他の研修講座や、総合教育センターによる学校を訪問しての研修等についての活用も促していく。

ウ その他

① いわて特別支援教育講演会

〔盛岡会場〕平成 30 年 9 月 30 日（日）ホテルルイズ 参加者 185 名

講義「発達障がいの理解と支援

～最新の知見から、幼児、学童、青年期の支援を考える～

講師 信州大学医学部 教授 本田 秀夫氏

〔一関会場〕平成 30 年 10 月 16 日（土）一関地区合同庁舎 参加者 115 名

講義「発達障がいの理解と支援

～対人関係におけるつまづきや学習に困難さのある子どもの理解と支援～

講師 宮城教育大学教育学部 教授 植木田 潤 氏

〔久慈会場〕平成30年10月27日（土）久慈地区合同庁舎 参加者 38名

講義「発達障がいの理解と支援

～青年期を見据えた幼児期、学童期からの支援～

講師 宮城学院女子大学教育学部 教授 梅田 真理 氏

【成果】

- ・週末の開催としたこと、チラシや県ホームページ等で周知を図ったことなどにより、幼稚園、保育所、保護者、学童クラブ、福祉事業所等広く一般県民の方に参加していただくことができた。

【課題】

- ・今後も身近な地域で多くの県民が受講でき、特別支援教育について理解を深める機会となるよう、講演会の名称や内容、開催地区や周知の方法等について検討していく。

(2) 特別支援教育体制整備について

ア 継続型訪問支援

- ・幼稚園（保育所含む）、特別支援学級を対象に年間3回を目途に訪問支援を実施。
- ・平成30年度事業対象80校・園
- ・特別支援教育エリアコーディネーター対応件数44件 ※平成30年12月末現在

イ 特別支援教育エリアコーディネーター

【趣旨】

- ・特別支援教育の一層の推進、充実を図るため、教育事務所や市町村教育委員会及び各学校への支援を強化することを目的に配置。

【業務実績】

- ・対応延べ件数：878件（内訳 支援・教育相談関係：525件 研修関係：353件）
※平成30年12月末現在

【成果】

- ・特別支援教育エリアコーディネーターや特別支援学校教員による地域支援が、各園・校に広く周知され、活用につながっている。
- ・学校教育課指導主事と総合教育センター所員、特別支援教育エリアコーディネーターによる担当会議を定期的で開催し、各業務の打合せを行うとともに、各地区における特別支援教育事業や就学支援についての現状確認と、今後の対応等について検討することができた。

【課題】

- ・地域の相談対応や研修対応の業務を整理・調整し、特別支援教育コーディネーター連絡会や特別支援学校による地域支援等をさらに活用していく。

ウ 特別支援学校への巡回相談

【趣旨】

- ・特別支援学校に在籍する心理的な不安等を抱える児童生徒及び教職員、保護者にカウンセラーを派遣し、指導助言を受けることを通して児童生徒への支援の充実を図る。

【実施状況】

今年度は以下の13校にて実施。

	対 象 校	実施回数	1回の時間
1	盛岡視覚支援学校	8回	3時間
2	盛岡聴覚支援学校	6回	3時間
3	盛岡となん支援学校	8回	3時間
4	盛岡青松支援学校	10回	3時間
5	盛岡峰南高等支援学校	6回	3時間
6	盛岡みたけ等支援学校	6回	3時間
7	花巻清風支援学校	7回	3時間
8	前沢明峰支援学校	6回	3時間
9	一関清明支援学校	5回	3時間
10	気仙光陵支援学校	3回	3時間
11	釜石祥雲支援学校	11回	3時間
12	宮古恵風支援学校	4回	3時間
13	久慈拓陽支援学校	7回	3時間

【成果】

- ・発達障がい傾向の児童生徒の対応や被災した児童生徒の心のケア等、専門家派遣の要請が多いことから、本事業による重要な取組となっている。
- ・沿岸地区特別支援学校及び高等部生徒への対応回数を増やしている。

【課題】

- ・各学校において趣旨を踏まえた効果的な実施となるよう、教育相談校内体制とのさらなる連動についても確認していく。

エ 副次的な籍「交流籍」を活用した交流及び共同学習の推進

【趣旨】

- ・特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒が、居住する地域との関わりを充実させるために、居住する地域の小・中学校に「交流籍」を位置付け、居住地校との交流及び共同学習を推進する。

【確認事項】

- ・居住地の学区の小・中学校を対象として実施することを原則としていること。
- ・特段の事情がある場合、学区外の特別支援学級設置校等を希望することもできること。
- ・交流及び共同学習は在籍校の教育課程に基づいて実施するものであり、在籍校の教員が引率し、指導することを原則とすること。また、交流籍校への移動に当たっては、保護者の責任のもとで行うものであること。

【成果】

- ・小学部、中学部を設置している全県立特別支援学校（分校含む）13校で実施。
- ・年度当初369名（前年比＋8名）の申請があった。
- ・継続的な取組による、交流及び共同学習の内容の広がりや深まりが見られる。

【課題】

- ・今年度の実施状況を踏まえた上での、児童生徒の教育的ニーズに応じた交流及び共同学習の内容・方法等についてのさらなる検討をしていく。

オ 企業との連携協議会（特別支援学校キャリア教育推進事業）**【趣旨】**

- ・地域の事業所・企業に特別支援学校や障がいのある生徒への理解促進・就労への協力等を得るために、地域の特別支援学校と企業との連携協議会を設立し、年2回程度開催している。
- ・特別支援学校高等部生徒の働くために必要な技能や態度、意欲などの向上を図るとともに、企業や関係機関の生徒理解や実習及び雇用機会の拡大を図ることを目的に、平成29年度から技能認定会を実施している。

【成果】

○企業との連携協議会

- ・盛岡地区（盛岡峰南高等支援・盛岡みたけ支援学校、11企業・事業所等）
- ・花巻、北上地区（花巻清風支援学校、8企業）
- ・奥州地区（前沢明峰支援学校、12企業）
- ・気仙地区（気仙光陵支援学校、3企業）
- ・釜石地区（釜石祥雲支援学校、9企業）
- ・宮古地区（宮古恵風支援学校、6企業）
- ・久慈地区（久慈拓陽支援学校、9企業）
- ・一関地区（一関清明支援学校、13企業） の8地区において実施（71企業参加）。

○第2回特別支援学校技能認定会：平成30年11月14日（水）花巻市総合体育館

- ・高等部を設置している県立特別支援学校から、技能認定種目（清掃、事務補助、物品運搬）と、デモンストレーション（パソコンへのデータ入力、マッサージ）に140名の生徒が参加した（審査員への協力企業等25社）。

【課題】

- ・企業との連携協議会については、参加企業の拡大と活動内容の充実を図るとともに、開催地区の拡大を検討していく。
- ・技能認定会については、企業との連携協議会との連携等による県内企業へのさらなる周知や来場者の増加に向けた取組、各学校における教育活動への充実につながる取組に向けた検討をしていく。

カ 震災からの教育の復興（沿岸地区特別支援学校等職業指導支援員の配置事業）

【趣旨】

- ・震災により沿岸部の特別支援学校生徒の現場実習先及び就労先の確保が厳しいことから、沿岸部の4校及び盛岡峰南高等支援学校に、計6名の職業指導支援員を配置し、就労に向けた支援を図る。

【成果】

- ・進路担当者の職場開拓の時間の確保、作業学習等における支援の充実を図ることができた。

【課題】

- ・実習先企業への訪問や実習生への支援など、引き続き支援員の積極的活用を図る。

キ 障がい者雇用促進対策事業

○ 校務補助員の配置

- ・県立高校の業務負担軽減のため、障がい者雇用43名。※平成30年6月1日時点。

ク 特別支援学校医療的ケア体制推進事業

○ 配置状況

- ・7校43名の児童生徒を対象に医療的ケアを実施した。
- ・看護師を41名任用して学校の実情に対応している。

(3) 特別支援教育かがやきプラン推進事業

○ 配置状況

- ・高等学校37校へ40名の特別支援教育支援員を配置した。

○ 特別支援教育支援員研修会

- ・研修会を通じて、支援員の資質の向上を図るとともに、各校における支援状況について情報交換を行った。

(4) 就学前からの取組

ア 市町村教育支援担当者研修会

- ① 期日及び会場
平成30年5月18日(金) 総合教育センター
- ② 参加者
33市町村から34名の参加

【成果】

- ・早期からの教育相談・支援、就学支援、就学後の適切な教育及び必要な教育的支援全体を一貫した教育支援として捉え、今後の特別支援教育のさらなる推進に向けた基本的な考え方を確認することができた。
- ・本県における就学に関する事務手続や、就学支援にかかわる取組状況、課題等について確認するとともに、各市町村教育支援委員会等の運営等について情報共有することができた。

【課題】

- ・各市町村においては、本研修内容を保健福祉担当課や各校の管理職と共有し、さらなる推進につなげていく。

(5) 特別支援教育ボランティア養成講座の開催

ア 実施校

① 盛岡青松支援学校

開催回数	参加延べ人数	修了生数	ボランティア登録者
8回	86名	12名	10名

② 前沢明峰支援学校

開催回数	参加延べ人数	修了生数	ボランティア登録者
8回	125名	14名	11名

③ 盛岡みたけ支援学校奥中山校

開催回数	参加延べ人数	修了生数	ボランティア登録者
8回	56名	8名	6名

【成果】

- ・各校において、養成講座の内容や広報の仕方を工夫したことにより、多くの方に参加いただくことができた。

(6) スクールトライアル事業〔教員志望の学生を特別支援学校へ派遣する事業〕

ア 支援要請校

盛岡みたけ支援学校

イ 派遣学生数(延べ人数) 12月末現在

- ・計10名(岩手大学10名)

【課題】

- ・昨年度比で派遣学生数が5名減となった。志望者は減少傾向にあり、次年度以降も大学側に十分な周知を依頼するなどにより派遣者数の増を図る。